

TPiCS レポート

お蔭様で、**1974本**

事業所数にして **639ヶ所**。

500本を越えたあたりから数えなかったのですが、この数字を聞いて 本人もびっくりです。3月31日現在のTPiCSシリーズの出荷本数です。ほんとうに有難うございます。

最近、初めての電話の第一声が「TPiCSが良い」と聞いたので、で始まることが多くなってきました。「うちの〇〇工場で使っているの」とか「関連会社に聞いて」というケースも多くなりました。生産管理システムの分野では「100本売ればヒット商品」といわれる程ですから、1974本というのは驚異的な数字かもしれません。

システムを軌道に乗せるのは、前回のレポートでも書きましたが やはり「難しいもの」で、途中で挫折をしてしまうケースが多いです。まわりに使っている人がいないと、チョッと問題にぶつかっただけで「これ本当に使えるのだろうか？」と心配になってしまいます。また 途中で挫折しても「だからパッケージではダメなんだ」などという言い訳が出来てしまいます。イソップ童話に出てくる“酸っぱいぶどう”です。しかしこれだけ沢山の企業で使っている“実績”があると、そう簡単にあきらめるわけにはいきません。「なんでうちだけ使えないのだ」と考えて頂けます。そうするとまた“本当に使えるユーザー”が増える。するとまた...

今回のテーマ

- 新TPiCS (現在のBtrieve版)について
- TPiCSとその動作環境について



今回のレポートはこんな書き出しで始め「速く安くレスポンス良く作る」をテーマに書きたいと思っていました。丁度良いユーザーさんの事例があったので、それをネタに一通り書いたのですが、チョッとインパクトが強いかと、FAXでお送りしたところ「今回はレポートに掲載するのは勘弁して下さい」と断られてしまいました。

「TPiCSレポートは沢山の人の目に読まれていて影響が大きいので、社内的にも社外的にも 問題が...」“沢山の人の目”は勿論お世辞でしょうが、もし本当なら、

私はいつもこう考えています。

- ・江戸時代は、読み書きソロバンが出来れば“学者”でした。
 - ・7~8年前は、MultiPlan や1-2-3 が使えると“へーすごいね”でした。
 - ・しかし 今は、ワープロが使えて表計算が出来るのが当たり前です。
- そしていつか 生産管理の分野では、“TPiCSが使えるのが当たり前”の時代が来る と。そうなるよう 頑張っていきたいと思います。

その為には、システムがもっと使いやすく、また 簡単にならなくてはなりません。しかし 実は、私はそれ以上に“ユーザー自身の考え方の変革”の方が重要だと思っています。今更いうまでもなく、ボーダレスの時代になり 競争が益々激しくなります。その中で、どうやって生き残っていくか？マーケットニーズにどう応えていくか？色々な問題があり それを解決しなければならない訳ですが、

- 速く、安く、レスポンス良く、
- しかし、安定した生産

をもっと真剣に考えるようになって頂きたいと思っています。なぜなら、TPiCSは ユーザーがそれを本当に望む時、最も役に立つよう作られているからです。

この文章が世に出ないことによる日本の製造業が被る損害は非常に大きなものになる筈です。(^_^)

その内容は、「従来は、**設備重視**、個々の**機能を重視**する工場運営をしてきたが、世の中の短納期化に合せ、ものの流れを重視した運営に変えようとしている」話です。文章というのは、このように“ダシガラ”状態にしていると、読んで頂く人に何も残せなくなってしまい

ます。

“A社で考えた方法がB社にとって良いとは限らない”生産管理だけでなくこれは当然の話です。しかし、実はここに大きな落とし穴があって、そこだけをとらえると せっかく読んで頂いても「ウチとは違う」とか「理屈は理解出来るが」に終わってしまいます。と言っているのは話が進まないの、要点だけでもう少し書かせて頂きます。

設備を重視するとは、設備のもとに生産を集中し 量産効果を上げ、生産効率を上げることをねらった考え方です。その結果、部品や材料は設備のあるところまで移動します。ある時は、前工程が終了していても設備が空くまで待たされることもあります。

在庫重視という考え方もあります。

在庫を悪の根源と考え、在庫を出来るだけ少なく運営する。

確かに、在庫にはスリムでタイトな生産とは相容れない面があります。この考え方も一般的です。

材料重視という考え方もあります。

加工方法によっては 端材が生じ、材料が無駄になるような場合に活躍する考え方です。

出来るだけ無駄のないよう材料取りすることを考え、大きなロットで作ったり、月末に予定されているものも一緒に作ったりします。

部品や仕掛りは今どこに幾つあって、どの様な状態であるかを把握しておかなければなりません。その為には、それらが移動する度に何等かの記録をします。

工場の規模が小さければそうでもありませんが、大きくなると、その必要性はますます高まります。

すると、その記録をとるだけでも大仕事です。

まさにコンピュータの出番です。

コンピュータに登録しておけば、常に何がどこにあり、どのような状態であるかが判ります。

原価の情報（作業時間や購入単価）もインプットするようにしておけば、なんと！ 原価まで判ります。

こうなればコンピュータは大活躍です。

流れが複雑になれば、移動票もコンピュータから出たくなります。

さらに 設備能力のアンバランス、工程ごとの標準ロットサイズの違い、製品による通過工程の違い、利用できる設備が限られたり、製品間の段取換えの条件も個々違うなど、生産条件が複雑に絡んでくると もう人間が考えていたのでは間に合いません。

平準化の計算までコンピュータがやってくれれば、言うことありません。

典型的なコンピュータを使った生産管理のニーズです。

従来 多くの製造業が、設備重視の工場管理をしてきた筈です。

設備重視の工場の場合、ものの流れが複雑になる為、管理面に負担が掛かります。管理の為の手間が増え、管理の為に要する時間が増えます。

いきおい 複雑なことをシステムに要求することになり、その結果動きのとれないシステムになってしまう。問題は、生産管理に携わる方は どうしても複雑なことをしたがつてしまう、あるいは複雑な条件を“こなす”ことを“イキ”に感じてしまう、それが大事な仕事だと思ってしまう というのではないのでしょうか。

“早く作ること”を 設備効率より大事だと考えるようになった。

設備や材料を多少犠牲にしても、“早く作ること”つまり時間の方が大事であると考える。

月並みな言葉を使えば**“価値観の変換”**です。

勿論 好んで設備を遊ばせておく訳ではありません。材料の無駄を全く考えない訳ではない筈です。

ようは、設備、材料、在庫（資金）、時間、顧客ニーズの **ウエイト付けとバランスの問題**です。

今回のレポートでは、今 まさにそれをなさろうとしている企業の話を書きたかったのです。

たんなる“考え方”ではなく、実際に今やろうとしている実話を紹介したかったのです。

話を伺って二つ「スゴイなー」と思いました。

一つは「良くそこまで思い切ることが出来たな」という点と、

二つ目は「そこまで踏み切らざるを得ぬほど、世の中の変化が激しいのだ」ということです。

幻の原稿を見て頂いた時「ウチなんか、遅れているからこれからなんですよ。こんなに書かれると恥ずかしいですね」などと謙遜なさっていました。

しかし、現実には「考え方としては理解できる」や「そこまではとても…」あるいは「ウチあたりはまだまだそこまでいっていないから…」では、ないのでしょうか。この話は現実には、今 起きようとしていることで、「考え方」や「理屈」の世界ではないのです。

しかし、ここが生産管理の難しい所で、作っている製品によっては、こんなことは必要ない業界もある訳です。

また しかし、それは本人がそう思うだけで、マーケットはそれを求めているのかもしれない。

あるいは、マーケット自身がまだそれを求めているだけなのかもしれない。

私が特に“気が短い”のか、私には世の中に「遅くてよいもの」など 存在するとは思えないのです。

趣味嗜好品を除き。

しかし、これも考え方しだいで「人類の終焉に向かって急ぐだけ」という見方もありますが、...

1社でも多くの製造業が真剣に「速く安くレスポンス 良い、しかし安定した生産」を望めば、必然的にTPiCSの売上が伸びることになります。(^^)

レポートを書いているとなぜかいつも同じ様な話が重なります。
今日のお客様の話は、こんな内容でした。
プラスチック系の製造業の方でした。
業界ではトップシェアの会社です。
単価の安い商品で、材料費率が高いとのことでした。
極限まで生産効率を高めた、典型的な設備重視の工場の筈でした。
初めのウチは案の定「段取換えが...」とか「設備能力と負荷が...」「平準化を...」
内心「またか...。この手のお客は苦手なんだ」と思いながらの会話でした。
しかし、話は途中から急展開です。
「実は、最近競合他社が“短納期”や“小ロットでも特注品を受けられます”とあって、伸びているのです」
正直 私もびっくりしました。
「こんな（設備重視の典型）業界まで...」
すっかり嬉しくなり、この書きかけのレポートを見て頂きました。
そして話は「如何にして早く作るか」に変わっていきました。世の中、私が考える以上のスピードで
変わっているということでしょうか、
それとも解る人には解るということでしょうか。

- インターネットのホームページへのアップロードについて
 - ・ Ver3 の正規出荷を始めたので、Ver2.3 の外国語版TPiCSのアップロードを終了しました。
 - ・ Ver2.3 の日本語版も追って終了する予定です。
- DOS版TPiCS-IV、VII、VIII、J、初めましてTPiCS-IVです、同-VIIです、の Ver3 のマニュアルが完成しました。今回もバージョンアップは基本的に無料で行います。
Ver2.3 に対する追加機能や、データ変換について説明した簡単な資料を用意しました。(無料)
しかし 今回から、マニュアルは別売りとさせていただきます。
IV : 2000円
VII、VIII : 700円 (今回からIVに対し追加されている機能だけを説明した薄いマニュアルにしました。VIIやVIIIのユーザー様はIVのマニュアルと合せてお使い下さい)
J : 1500円
はじめまして: 1000円
送料等 詳しくは、マニュアル注文用紙をご請求下さい。
- トーテックアメニティ株式会社さんが、またまた新しいシステムを開発しました。
名称: **どこでもTPiCS (AP-WORKS/ネットワーク)**
内容: TPiCSとモバイルコンピューティングをドッキングさせました。
 - ・ 協力会社支援システムとして利用することが出来ます。
親会社と協力会社にTPiCSが導入してあれば、ISDN公衆回線を利用して 発注及び納入情報をペーパーレスに 且つリアルタイムに活用することが出来ます。
その結果 支給材の在庫管理ができ、在庫削減が可能です。
 - ・ メールを利用することもでき、FAX 電話回線から電子メールへの利用へと発展させることが出来ます。
 - ・ 費用も安価で、また短期間で構築することもできます。価格: ソフト 100,000円 / 1社あたり (親会社も協力会社も1律です)
お問い合わせ先: トーテックアメニティ株式会社 産業システム事業部 (青木さん) Tel:052(219)3221
- 毎回ご案内していますように、研修会に 2回目3回目は 無料で受講できます。
仙台、東京日立、名古屋、大阪の各会場では、同一会場に2回目3回目の受講をする場合、その会場に空き席があれば 無料で受講出来ます。なお 巣鴨会場はいつも満員であることも含め、無料にはなりません。

1 新TPiCS (現在のB t r i e v e 版) について

前回のレポートでご案内しました様に、2年間かけて作ってきた Visual Basic を使った Windows 版TPiCSを捨てることにしました。
それを知ったこの業界の知人から「よく決心しました

ね」と言われました。

「新しいものを得るためには、古いものは捨てなければなりません。そして次に新しいツールが出た時にはまた変えなければならないですね」

前のご案内では、触れませんでしたでしたが新TPiCS (現在のBtrieve版) になった時のカスタマイズ性についてご説明します。

カスタマイズ方法は、3通りを予定しています。

①DLLサブルーチンを使う方法

新TPiCS(現在のBtrieve版)の場合も、Visual Basicと同じ様にDLLサブルーチンを公開します。

Visual Basic版では、1,000を超えるDLLサブルーチンを公開していましたが、新TPiCS(現在のBtrieve版)では、

- 1 所要量計算をするサブルーチン
- 2 伝票データを作るサブルーチン
- 3 伝票データを分割するサブルーチン
- 4 注番を付番するサブルーチン
- 5 確定処理をするサブルーチン
- 6 実績インプットをするサブルーチン

現在 Visual Basic版で使われているサブルーチンより、もっと簡単に使えるサブルーチンにする予定です。

- 7 作業量を集計するサブルーチン
- 8 親子レベルを設定するサブルーチン
- 9 受注データを読み込むサブルーチン (Jのみ)

10 出荷実績インプットするサブルーチン (Jのみ)等

を、用意する予定です。

Visual Basic版では、Visual Basicのソースを全て公開し自由にカスタマイズを行えるようにしていましたが、新TPiCS(現在のBtrieve版)ではTPiCSのソースコードは公開いたしません。

カスタマイズは、上記サブルーチンを使って行って頂きます。

DLLサブルーチンは、Visual Basicやその他開発ツールで利用することが出来ます。

②データファイルを直接見る方法

従来通り、ファイルレイアウト資料は公開しますので、他の開発ツールでTPiCSデータを直接読み書き出来ます。

③テキストファイルでデータをやり取りする方法

これも従来通り、全てのデータをテキストファイルで読み書きすることが出来るので、テキストファイルをインターフェースにして他のシステムと連携することが出来ます。

2 TPiCSとその動作環境について

ユーザーさんからTPiCSを使う為に必要なハード等の環境を聞かれることがよくあります。

動作環境が本当に複雑になったため、少し整理してみたいと思います。

私は、ハードの専門家ではないので間違いもあるかもしれませんが、色々パソコンを使って初めての感想も含めご説明します。

先ず初めにTPiCS開発の基本の考え方は「現在市販されているパソコン(出来れば一歩先のスペック)で動く」ように作っています。

ですから、特殊なものはなにも要りません。

贅沢さえ言わなければ、普通のパソコンで動くはずで

① Windows版TPiCSの場合

●Windows95を使うか、WindowsNT4.0を使うか

TPiCSはどちらでも動きますが、両方を使ってみて、弊社にとってWindowsNTの方が良い理由が見つからないので、現在は殆どWindows95を使っています。

WindowsNTよりWindows95の方が幾分早いので。

●スタンドアロンの場合

CPU: 速い方がベターですが、予算に限りがあれば、Pentium 200と166のスピード差は、実際に使ってみると価格差ほどには大きくないので166も選択肢です。

同じサイクル数なら、MMXの方が若干速いようです。

メモリ: 30~40M

Windows95だとこれ以上大きくしてもTPiCSにはあまり効果はありません。

しかしこれ以下ではかなり遅くなります。

巷では“メモリを大きくすると速くなる”とよくいわれますが、チョッと考えてみれば解るように、どんなに沢山のメモリを積んでも、CPUのスピード(サイクル)が速くなる訳ではありません。

色々試してみると、Windows95は期待するほどメモリを有効に管理してくれないようです。

WindowsNTの方が、若干大飯喰らいです。もう少し大きいメモリを用意した方が良いでしょう。

ハードディスク: 1Gから2G

TPiCSはデータもコンパクトに作ってあるので、1Gのディスクでもゆるゆるですが、安くなったので余裕があった方が良いでしょう。

SCSIの方が信頼性があるといわれていますが、IDEでもSCSIでも結構です。

その他:

ビデオカードはその良し悪しによりCRTに表示される鮮明さがかなり違います。一般的に市販されているパソコンでは限度があるので交換するとよいです。

綺麗に映ると目の疲れが大分違うようです。

3万円前後で結構良いものが買えます。

CRTはある程度良いものを使いたいです。

DOSの時代は、CRTの良し悪しは殆ど判りませんでしたでしたが、Windowsになるとその差がハッキリ出ます。

本体とセットで売られているものは、一般的にイマイチのものが多い様です。

CD-ROMは4倍速で充分です。

マウスの良し悪しも勿論ありますが、意外と分りにくく、また気に入ったものがなかなかみつかりません。

●LANのクライアント機の場合

基本は、スタンドアロンの場合と同じですが、

ハードディスク：小さくて安いものがあればそれで良いのですが、最近では、小さなものが売られていませんから結局1G～2Gのものになってしまいます。

LANカード：全く新しくLANを敷設するならば、100BASEのカードを使うことになるでしょうが、従来のものに増設するならば、10BASEのカードを使用するしかありません。最近ではプラグ&プレイが定着してきたので、余程ひどいものでなければ、差し込むだけでいとも簡単に繋ぐことが出来ます。

しかし、チョッと凝った繋ぎ方をしようとする、なかなか思うように設定できなくなってしまうました。

②DOS版TPiCSの場合

最近では、DOS機が販売されていないので、次のことを考えます。

●Windows95のDOSプロンプトで動かす方法

DOS/V系のWindows95のDOSプロンプトならDOS版TPiCSが動きます。

ユーザーさんから98でも新しいものなら動くと言っていますが、弊社では確かめていません。

この場合、ハードウェアはWindows版TPiCSと同じ様に考えて下さい。

以下のいずれの場合も同じですが、DOSのコンベンショナルメモリは、550Kbyte程必要です。

●WindowsNTのDOSプロンプトで動かす方法

これは、情けない話ですがプリンタがチャンと働かなくて、思うように動かないケースがあります。全く同じ様に設定したつもりでも、弊社の中では未だに印刷できていない為WindowsNTのDOSプロンプトではDOS版を動かさないようにしています。

●MS-DOSを再インストールする方法

ハードディスクをフォーマットし、MS-DOSを再インストールしてしまいます。

この場合は、メモリは1～2Mで充分です。

その他のハードウェアは、Windowsの時と同じです。

●古いパソコンを使う方法

それでも大丈夫です。

しかし、この分野の進歩変化は非常に激しいので、またずいぶん安くなったので、3年以上前のパソコンなら買い換えた方が良いでしょう。

DOSは、Ver5以上が必要です。

●LANのクライアント機の場合

基本はスタンドアロンの場合と全く同じですが、LANカード：ネットワークOS用ドライバが付いていることを確認します。

③サーバ機の場合

●NetWareか、WindowsNTサーバか、Windows95等の簡易サーバか

NetWare：今更の感がありますが、現時点 純粋にサーバ機能だけを比べたら、WindowsNTよりNetWareの方がスピード、信頼性、共に上だと思えます。

WindowsNT：これからサーバを入れようとする、どうしてもWindowsNTを選択することになってしまおうと思えます。

新TPiCS(現在のBtrieve版)になって、OracleやMS-QLServerを使うとなると、選択肢はWindowsNTの他は殆ど無くなってきます。

簡易サーバ：生産管理をおこなうとデータ量がどうしても多くなり、なおかつスピードが要求されるので、実用に耐えないと弊社では全くテストしていません。

●サーバ専用機か、DOS/Vパソコンをサーバにするか。

24時間ノンストップでサーバを動かすなら専用機。夜間止めることが出来るなら、DOS/Vパソコン。パソコンの進化が激しいので、サーバ専用機を5年間使うより、速いDOS/Vパソコンをサーバ機として使い、それを2年毎に新しいものに取り替える方がメリットがあります。

サーバの役目が終わったパソコンは、普通のDOS/V機として使います。

とにかく進歩が激しいですから、あまり先のことを考えない方が良いでしょう。

●データベースは、何を使うか

従来のTPiCSには、Btrieve版だけだったので何も考える必要がなかったのですが、新TPiCS(現在のBtrieve版)になると、OracleとMS-QLServerの2つが選択できます。

OracleやMS-QLServerは未だ使い込んでいないので、未確認要素が多いのですが、Btrieveと比べるとかなりスピードが落ちるようです。

SQL系のデータベース(OracleやMS-QLServer)の機能の良さも解りますが、TPiCSのバックエンドとしてそれをそのまま使うのが本当に良いか、甚だ疑問です。

TPiCSは、所要量計算など非常に激しい計算をおこないますが、計算中所謂データベース機能は全くいりません。

むしろ私は、TPiCS自身はBtrieveの様な速いデータアクセス機能(本当はBtrieveもデータベース機能なのですが)で動かし、必要に応じ連係できるほうが良いのではないかと考えています。

そんな訳で、新TPiCS(現在のBtrieve版)でもBtrieve版を作りたいと思っています。インターン

ルブ社から5月末にBtrieveを使えるODBCドライバーが発売されるという情報を得ました。その内容を見てTPiCSの開発方法を考えるつもりです。

Oracle及びMS-SQLServerは別途購入が必要です。Btrieveは、

- ・スタンドアロンの場合、TPiCSに標準添付。
- ・NetWareサーバの場合、NetWareに標準添付。
- ・WindowsNTサーバの場合、TPiCSに標準添付されるローカルのBtrieveを使うのをお勧めします。理屈では、WindowsNTサーバ用Btrieveを別途購入して使うことも出来ますが、不安定という話があるので現在検証中です。

DOS版は、Btrieve版だけ(従来通り)です。

- CPU：速ければ速いにこしたことはありません。特にOracleやMS-SQLServerの場合は、かなりパワーのあるものを用意する必要があります。Oracleの場合、UNIX系のサーバ機を使うことも可能です(弊社ではまだ確かめていません)。パソコンサーバで、Btrieve並みのスピードを出すのは難しいので、予算に余裕のある場合は、UNIX系のマシンをお使いになることをご検討下さい。ただし、UNIXマシン上ではTPiCSは動きません。
- メモリ：WindowsNTサーバ及びOracleでは未だ試していませんが、一般的にはメモリは多い方が早くなると言われています。しかし、今までの経験ではいずれの場合も上限があり、ある量を越えると後は、増やしても効果は無くなります。
- ハードディスク：一般的な選択では、SCSIのハードディスクになると思います。サーバになるとどうしても、不用ファイルを的確に消すのが難しくなるので、必要以上に大きめのディスクを用意した方が良いでしょう。
- SCSIカード：PCIのカード、市販されているものは限られているので、実際には検討の余地は殆どありません。
- LANカード：クライアントの場合と同じです。
- CRT：NetWareの様に全くサーバ専用機としてだけで使うなら、10インチ程のモノクロのCRTで充分です。ビデオカードもISAのVGAで充分です。WindowsNTの場合、ワークステーションの様にして使うことも出来るので、その場合は、前記：クライアントの場合と同じです。

WindowsNTサーバをワークステーションのように使う場合、

メリットとしては、

- ・WindowsNTのLANの場合、サーバ上で所要量計算するのが一番早い。
- ・一般的な意味で使えるパソコンが1台増える。

デメリットとしては、

- ・所要量計算等をする、他のクライアントへ大きなダメージを与える資源は決まっているのですから、サーバが自分の計算に一生懸命になれば、他のクライアントへのサービスはおろそかになります。

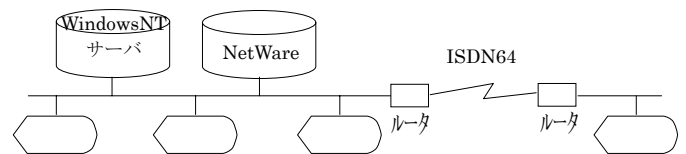
が考えられます。

④ WAN

TPiCSから見れば「提供されるネットワーク環境」であるため、安定且つ高速であれば、WANもLANも区別なく正常に動作します。

現状ISDNが一般的になってきましたので、スピード及び安定性共に実用の域に達してきたと思います。しかし、ISDNを挟んで所要量計算をするのはまだ現実的ではありません。実績インプットや、在庫照会程度の用途とお考え下さい。

弊社では、在宅社員との間で、



このような環境で仕事をしています。

⑤ バックアップ用機材

No42のTPiCSレポートでも書きましたが、とにかくリムーバブル記憶媒体を使うことを強くお勧めします。

何年も前からFDに変わる大容量メディアの必要性が叫ばれていましたが、本命がなかなか決まらないうち、CD-ROMが一つの“標準”になってしまいました。勿論CD-ROMでは、書き込みが出来ないのでバックアップには使えません。

なんでも良いから早く“標準”が決まってくれば良いと思うのですが...

ZIPドライブ、MO、JAZなど、そのままランダムアクセス出来るものが良いです。

テープストリーマは、メリットがありません。

先日、あるOSメーカーさんから電話があり、「イントラネット用サーバOSの対応ソフトのカタログ誌を作っているのだが、TPiCSをそのカタログ誌に載せてもいいか」という問い合わせです。

現在弊社では、Windows版の作り替えの真っ最中で、とてもイントラネットまで手が廻らないため「イントラネットは未対応です」と答えたところ「TPiCSはネットワーク対応でファイル共有及び排他制御をしているのですよね。なら当社の新しいイントラネットOSでも問題なく動くのです」

「しかし、ユーザーがイントラネット対応と書いてあるカタログを見ると、WEBのブラウザからTPiCSのデータが見えたりTPiCSそのものを操作出来るように思いませんか」

「ハイでもそれも含め当社ではイントラネット対応と呼ぶことにしたのです」

「“ブラウザから見ることも出来ないのにTPiCSはイントラネットと言っている”と怒られるのは私ですから、せめてそのカタログに“ブラウザから見たり操作できるものとは限りません”と明記していただけますか」といって、掲載して頂くことに同意しました。

この話は何を言いたいのかというと、この業界 雑誌や広告ではカッコいい話ばかりが出てきますが、実体はイントラネット対応の業務ソフトなど 殆ど無いのだろうということです。

イントラネットOSを発売してもそれを活かすアプリケーションが無ければ誰も買ってくれない。

そこで「イントラネット対応ソフトカタログ」を作って市場にアピールし、活性化を計ろうとしたが、蓋を開けたら「対応ソフトカタログ」を作るだけのボリュームが無かった、こういうことだろうと思います。

先日「雑誌には、インターネット イン트라ネットと 便利そうなことが沢山載っていて、それを使わないと時代遅れになるかのごとくに書かれているが、どこに行ったらそれを売っているのですか。TPiCSはどうですか」と聞かれたことがありました。

確かに本当に急激に変化しています。秋葉原に行くと、切符売場は当然のこと、階段の上り降りが初詣での人混みの様です。冷蔵庫やカラーテレビを買いに来た人達ではありません。

昔から良く秋葉原には行っていましたが、かつてこんな人混みを感じたことはありません。

新しい商品にあふれ、マーケットが急拡大しています。

前回のレポートでJAZZのCDのことを書いたら、何故か3枚中2枚見つけることが出来ました。

念じれば通ずるでしょうか。

二ノ宮